

令和6年度 第1回甲斐市総合計画審議会

日 時 令和6年5月31日（金）
午前9時30分～10時45分
場 所 新館3階 第2・第3研修室
出席委員 13名／19名
欠席委員 山口委員 小宮山委員
中村委員 芦川委員
中込委員 功刀委員

【委嘱状交付式】

- ・市長から新任の遠山委員に委嘱状の交付を行った。

【第1回審議会】

- 1 開会（事務局）
- 2 市長あいさつ

日頃から市政に対してご理解、ご協力を賜りお礼申し上げます。

さて、本審議会につきましては、総合計画及びその実施に関しまして、必要な事項について調査、審議するため、市長の附属機関として設置をさせていただいているところでございます。

先ほど、ご委嘱を申しあげました遠山様をはじめ、委員各位より、貴重なご意見やご提言をいただく中で、審議を進めてまいりたいと考えておりますので、ご指導をよろしくお願い申し上げます。

本日は、「第3次甲斐市総合計画 後期基本計画」及び「第2期甲斐市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の成果指標の報告のほか、昨年度実施した市民アンケートの自由記述部分の集計結果の報告や、第3次甲斐市総合計画の基本構想策定方針につきまして、事務局より説明を申し上げます。

今年度は、新たな計画策定を予定しているため、審議会の開催回数も多くなる見込みですが、委員の皆様には、これまで積み重ねてこられた知識、経験等を生かしまして、忌憚のないご意見を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

また、最近では、線状降水帯に起因する大雨があり、本市においても釜無川を抱

えているので、日頃から心配はしておりますが、国土交通省にもご協力いただくなかで、信玄堤を守っていくことが重要だと考えております。

したがって、現在、信玄堤の土手に黄色い花が咲く特定外来生物のオオキンケイギクが繁茂しているので、国交省にもお願いして、機械で除草していただいたところであります。

オオキンケイギクは、切るのがもったいないような綺麗な黄色の花が咲きますが、土手を守ることが水害からまちを守ることにもつながるので、信玄橋から開国橋までの区間は、来月予定している富士川流域河川清掃において、オオキンケイギクの除却作業に職員とともに取り組みたい。

3、副会長選出、委員紹介

- ・本日出席している委員の自己紹介を行った。
- ・副会長の選任について、委員より事務局案を求められたことから、穴水委員を指名し、承認された。

4 会長あいさつ

本日は月末の特にお忙しい中、お集まりいただきまして誠にありがとうございます。

世の中の全般的な人手不足により、様々なところで IT 技術を用いた省人化、無人化、時間短縮、遠隔化、コスト削減などのデジタル化が進んでいる。私は、経済、金融の分野が専門なので、デジタル化に特に詳しいわけではありませんが、長らく日本の電気産業にいた方の言葉を借りますと、「画期的な簡易化こそデジタル化の本質」ということでもあります。デジタル化を進めるにあたっては、様々な機能を付け加えることで結果的に高コストとなってしまうことがあるので、デジタル化を進めていく上では、「ニーズに合ったものになっているか」、「画期的な簡易化となっているか」、デジタル化の本質を見失わないことが大切と感じております。

本日も活発なご議論をお願い申し上げます。

■市長公務のため途中退席

5 案件

案件（１）

第２次甲斐市総合計画・第２期甲斐市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況について事務局から説明

（委員）

第２期甲斐市まち・ひと・しごと総合戦略の基本目標２ 都市と自然の魅力を生かした定住促進についてお伺いします。整理番号 15 番、移住者数の目標値 30 人に対して、令和 5 年度実績が 77 人、また、整理番号 16 番の移住支援事業補助金交付金件数の目標値 10 人に対して 33 人と、目標を上回る達成状況であります。こちらの資料の中に記載されているとおり、コロナ禍によるテレワークの普及により、山梨県内に転入されたということもわかるが、アンケート調査や新聞報道を見ても、甲斐市の住みやすさは世間からも評価されていることが要因であると思う。

移住者数の増加を一過性に終わらせることなく、引き続き移住者数の増加に取り組む必要があると考えているが、これからの見通しについてどのように考えているか伺いたい。

（事務局）

私たちも甲斐市に魅力があるから、移住してくるものと考えている。引き続き、移住相談会を担当者が出向いて説明をしたり、オンラインでの相談会に参加することで、一過性に終わらせることなく、移住者を増やす取り組みを進めてまいりたい。

（委員）

資料 1 の整理番号 53 番 防災訓練参加者で、算出方法が安否確認の人数となっているが、ここ数年コロナ禍により、安否確認のみ実施する自治会が増えてきております。

安否確認人数が目標値となっていることで達成できているだけとも考えられる。幸い、山梨県は災害が起きていないが、全国に災害が増えてきているので、防災訓練の在り方や指標の設定について検討いただきたい。

（事務局）

市としても災害に備えるため、防災に関する指標の設定をするとともに、防災訓練についても、危機感を持って皆さんにご参加いただけるようなメニュー等も考えていきたいと思っておりますので、引き続きご協力をよろしく申し上げます。

(委員)

資料 2 の整理番号 8 番、ブランド総合研究所が公表している地域ブランド調査認知度全国ランキングにおいて、認知度を向上させるために、SNS や YouTube を活用した情報発信を行い、認知度を上げていくとの記載がありますが、甲斐市の公式 SNS や YouTube のフォロワー数が少ないことが気になっております。甲府市は甲斐市とは桁が違うくらいフォロワーがいるので、甲斐市においても認知度を上げていくような施策をご検討いただきたい。

(事務局)

全国に向けた PR をするうえで、電子ツールを活用することは、非常に重要なことだと思っております。現在、ふるさと納税に関して SNS を活用しているところであるが、委員からいただいた意見を踏まえて、認知度を上げるための積極的な活用をしていきたい。

(委員)

資料 1 の基本目標の中で、教育・文化、福祉・健康、都市・建設・交通・防災、環境の 5 つに分野が分かれています。平成 30 年度と比較して令和 5 年度がどうだったかという数値を見ますと、数値的に落ちているというのが、教育・文化については 27 項目中 17 項目、福祉・健康については 14 項目中 6 項目あった。

一方、建設関係では、平成 30 年度と比較して上回っている方が非常に多くて、環境の方も半分が上回っているということで、分野によって差が生じている。

平成 30 年度と比較して悪化している教育、福祉・健康があり、改善している建設・都市・交通・防災、環境、こういう傾向があると思うのですけれども、これは、目標が高いのかもしれないが、平成 30 年度と比較して低くなっていることや分野によって差が生じているのは、あまり好ましい状況ではないと思います。行政として力を入れる分野と、力入れても効果が出ない分野が分かれている気がしますが、そのあたりの見解としてはいかがでしょうか。

(事務局) ※酒井経営戦略課長

ご指摘いただきましたように、教育・文化に関する指標が下がっているという中に、学校に関する部分も多く、コロナの影響で指標にあるような取り組み等ができなかった。その中で不登校については、学校に行かないことが続いたことで、コロナ禍後も思うように通学できないことが影響をしていると感じております。

次に、福祉・健康についても、対面でやる事業が中止になったことが影響していると思っております。今後はコロナも 5 類移行ということで、積極的に政策

等を進めていきたいと考えております。

(事務局) ※丸山総合戦略部長

委員のご質問の補足をさせていただきます。

今、課長が説明したとおり、コロナの影響が令和2年度から令和4年度にかけてピークとなっております、コロナが落ち着くまでの間にだいぶ達成率が下がっております。

一方で、都市とか建設関係のものが増えているというのは、こちらは整備率とか、基盤整備を目標にしておりますので、コロナ禍においても着実に整備が進んだところであります。

我々としても、第2期総合計画、総合戦略とも予期せぬパンデミックが支障となっております、なかなか達成できていない指標があります。

資料1の右側から2列目に5年度実績に対する原因、一番右の列に令和6年度の取組予定を記載しておりますので、参考にしていただければと思います。

(委員)

資料2の整理番号46番の「地域の行事に参加しているか」を問うアンケートについて、今年PTA会長をさせていただいているが、なかなか子どもたちが行事に参加してくれず、苦労している。

PTAで地域の行事をやるときに、今でもアナログで通知を出したりしていて、今年からLINEグループを作ったのですけれども、PTAと学校がうまく連携できていないため、やっている方も大変だし、連絡の関係とかは個人情報の問題もあるので、うまく学校に入ってもらえればありがたいと感じています。

ただ、私は、この辺に住んでいるのですが、子どもの数が非常に少なくなっている中で、それぞれの負担が増えていくのであれば、行事が少なくなっていくのも、やむを得ない部分なのかなと思っておりますので、行事の見直しとかの話し合いの場があることは承知しておりますが、この指標がこれでいいのかどうかも含めて、学校と考え方を共有できたらいいと思います。

(事務局)

ご意見、ありがとうございます。いただいたご意見を、担当に伝えたいと思います。

案件(2)

市民アンケート(自由記述部分)集計結果について事務局から説明

(委員)

意見の件数が多かったのは、小分類的に言うと、産業・行政の中の創造的な行政運営の推進というのが一番多いのですが、創造的な行政運営の推進というのはどういった姿を目指しておられますか。また、それに対して市民の方から、代表的な意見でどのような意見があったか、お聞かせいただけないでしょうか。

(事務局)

創造的な行政運営に関する意見を多くいただいているが、代表的な意見としては、40代女性の方から、デジタル化の進む社会の風潮ではあるが、誰もおいでけぼりにしないまちづくりをしてほしい、60代男性の方からデジタル化の推進を進めてもらいたい、という意見をいただいております。このような意見を集約しながら、担当部局とも精査をした上で、まちづくりを進めていきたいと思っています。

案件(3)

第3次甲斐市総合計画等策定の概要について事務局から説明

※質疑等なし

案件(4)

第3次甲斐市総合計画 基本構想骨子(案)について事務局から説明

(委員)

資料5の市民アンケートの4番目、第2次計画における19個の施策の中で、特に満足の高いトップ3に「道路・交通環境の整備」が入っている一方、特に満足度の低いトップ3にも「道路・交通環境の整備」が含まれている。満足度が高い方でもトップ3だけど、満足度が低い方でもトップ3に入っているという、そういう感じの、人によって違うみたいな感じはあるのでしょうか。

(事務局)

満足度が両方に入っているというのは、昨年調査した結果の中でも表れておりまして、世代によっては両方の結果が出る場合があります。顕著に出ているところだと、子育て世代においては、子育て政策に満足しているという回答が多い一方で、不満という回答も多く、このような結果となっております。

(委員)

主な課題ということで、企業誘致も重要だと思いますけれども、甲斐市内には素晴らしい中小零細企業があるという前提から考えると、どこかから大きな企業を呼ぶことも重要なかもしれませんが、現在、甲斐市で頑張っている中小零細企業に対する施策みたいなものも、何かしらの形で反映していただきたい。

(事務局)

土地柄、大企業を呼んでくることは少ないかと思います。ただ、ルネサスのような大企業が戻ってきたりもしていますので、雇用を促進していくとともに、中小企業に対しても、いろいろな施策等を踏まえながら、地域の人たちを含めて、甲斐市が発展していくように事業を進めていきたいと思います。また担当課にも意見を伝えたいと思います。

(委員)

第3次総合計画策定に向けた総合計画審議会の位置付けは、市の本部会、部会、作業部会、その中で素案をまとめて挙げて、我々の審議会がその内容について諮問を受けて答申をするという感じだと思います。

今日いただいた進捗状況は、外に公表する内容のものではないということであれば、指標の出し方について、「達成」と「未達成」の2極に分かれてしまっているのも、上條委員からも出たように、目標値をはるかに達成しているものもあれば、全く達成できていない、ほぼ達成できているものもあって、それを2つに分けてしまうと、したか、しないかの話になってしまう。

次期計画の指標の設定にあたっては、達成できる算定根拠や、自分たちが立てた目標が達成できるような算出方法が正しいのかどうかを、見直せる場所があったら見直していただいて、本審議会の検討資料として提出をしていただければ、非常に助かると感じました。

(事務局)

貴重なご意見ありがとうございました。これまでの経緯からいたしますと、第1次から第2次と変わっていくなかで、1次ときは、基本構想、基本計画、その下に実施計画という、3層構想でありました。2次につきましては、人口減少問題が発生する中で、実施計画をなくして各所管の個別計画に力を入れた体系となっておりまして、先ほども杉田係長から説明ありましたが、3次につきましては、コロナ禍が明け、社外情勢の変化、例えばDX、GXが入ってきたりという形で、完全に見直しをしなければいけないものと思っております。

我々の業務改革の中で個別計画の指標と、総合計画の指標のずれの確認など、仕事の仕事を減らす一方で、指標の考え方についても、所管によってハードルの

高い、低いがありますので、部会や本部会などをでチェックしながら、本審議会においてもご議論いただきたい。

6 その他

(事務局)

次回の第2回審議会につきましては、6月24日午前の開催を予定しているので、よろしくお願ひしたい。

以上